

議 長 会議を再開します。 (午後 1 時 0 0 分)

々 これより、本山議員の一般質問を行います。4 番本山議員。

4 番 本山議員 4 番議員本山でございます。通告書に従いまして、質問をいたします。年末にかけまして、政治と金の問題が大きく報道されました。政治と金、これに関心が集まり、多くの皆様が政治に信頼をなくしました。川本町も選挙の年でありますので、クリーンで誠実な選挙が求められるというふうに思っております。3 月 1 1 日で東日本大震災から 1 3 年が経ちました。また正月には能登半島で大きな地震が起きました。改めて、災害はいつ起こるかわからない。日頃の備えがいかにか大事であるか、教えられたところでございます。川本町におきましても、想像力と知恵を働かせ、最大限の防災対策をお願いしたいと思います。今回の地震によってお亡くなりになりました方々に御冥福をお祈りいたしますとともに、厳しい環境の中、今なお避難生活を余儀なくされております被災者の皆様にお見舞いを申し上げます。一刻も早い復興がなされることを祈るばかりでございます。今回は、野坂町長 2 期目の町政運営の取り組みをお聞きいたします。人口減少対策を大きな柱とされ、ハード面の課題は、立地適正化計画に盛り込み、ソフト面の課題は女子野球で繋がるプロジェクトを中心に、横断的かつ重層的に取り組むとされております。選挙公約のもと地域との協奏。目指す 5 つのまちづくり、この内容を実行することが、横断的かつ重層的に取り組む奮闘される実質的な内容になると思います。そこで、内容について幾つかポイントを絞ってお聞きしたいと思います。1 点目、地域の歴史・経済・文化・風土などの特色を生かした産業の町づくりについてお聞きいたします。これは、次世代につながるまちづくりを進めております、立地適正化計画の基本的な考えに基づくものだと考えます。川本町は、豊かな歴史と文化を持つ三つの公民館区を有しております。この地域の特色を生かした産業のまちづくり、この特色を生かしたという言葉は、この上なくよい響きがあります。そこで、もう少し具体的に、このイメージをお聞かせいただきたいと思っております。例えば、交流のまちとしての歴史や伝統文化を活用した観光産業の振興など、どのような取り組みをお考えか。また、地域の発展と環境保全の両立に向けた施策を検討されておられるのかを、問うものであります。2 点目、安全安心で活力ある暮らしを守る基盤づくりについて伺います。恒久的な治水対策が進む中、大きな課題は、川本堤防の完成堤防化であります。これは、川本町全体で共通認識とされていると捉えておりますが、今後も粘り強く国・県に働き続け、早期の完成に至ることが必要であります。一方で、対策が遅れている、されていない地区がございます。日向地区については、水害の常襲地区でもあります。この日向地区の対策は今後どのように考えておられるのかお聞きいたします。また、中倉日向線の改良工事が終わりましたが、この町道は中倉から日向への接続によ

4 番  
本山議員

り、孤立集落の解消を図るため大切な事業でありましたが、現在の状況には懸念があります。正覚寺付近の道路幅が狭く危険が指摘されております。緊急時のことなどを考えれば、この改良工事の完成形等は考えられません。拡幅工事の必要性を感じます。治水と道路整備について、今後の取り組みを問うものであります。3点目、新しい人の流れづくりについて、お考えをお聞きます。かわもと暮らしの法人化、女子野球クラブ創設、河津桜公園整備についての計画は、交流人口・関係人口・滞在人口拡大に期待するところでもあります。東京・関西・広島川本会などの参加者には、ふるさとに思いを寄せ応援したい方、関係人口が多数おられます。川本出身者のネットワークを活かすと言われておりますが、もっと機能するネットワークの構築が必要と考えます。町長の思いを問うものでございます。以上、よろしく願いをいたします。

議 長

それでは、本山議員の質問、「町長 2 期目の町政運営について問う」に対する答弁をお願いします。番外野坂町長。

番外  
野坂町長

本山議員ご質問の「2 期目の町政運営について問う」にお答えします。まず、1 項目めの「3 つの公民館区の歴史・文化・風土などの特色を生かした産業のまちづくり構想のイメージ」についてであります。本町は古くから江の川の水運により、近接する世界遺産となった「石見銀山」や「たたら製鉄」に関連する、人や物資が行き交う要衝として栄えてまいりました。こうした背景のもと培われてきた本町の経済効果を生み出す商工業や、農林水産業を持続・発展させていくためには、それぞれの地域特性を踏まえ、付加価値を高めていくための取り組みを進めていくことが肝要です。具体的に申しますと、はじめに弓市地区につきましては、まさしく今現在、目指しているコンパクトタウンの実現に向けて、課題の一つとなっている事業承継に例えば「女子野球で繋がるプロジェクト」を紐づける取り組みなどを検討してまいりたいと考えております。次に、因原地区につきましては、本町のみならず近隣自治体にとっても不可欠となる、小売商業や生活支援サービスが集積しているという地の利を生かし、こうした地域経済循環の中核施設であります「道の駅」の今後の在り方について、現在検討している内容を、策定中の立地適正化計画に盛り込み、更なる付加価値を呼び込んでまいりたいと考えております。次に、三原地区につきましては、エゴマをはじめとする農産物のブランド力の向上、それに必要な担い手の確保支援や、有機農業の取り組みを支援するとともに、株式会社三協と連携した取り組みを一層強化してまいりたいと考えております。次に、2 項目めの「安全・安心で活力ある暮らしを守る基盤づくり」についてであります。議員ご指摘のとおり、本町を含む流域の市町や県も参画して策定された、「治水とまちづくり連携計画」等に基づいて、現在、瀬尻・久料谷、谷地区への恒久的な治水対策が着実に進められております。また、残る大命題の川本堤防の完成堤防化に向けましては、現

番外  
野坂町長

在策定中の立地適正化計画による、まちづくりイメージを伴って要望してまいります。議員ご指摘の日向地区につきましては、平成28年に国土交通省中国地方整備局により策定された「江の川水系河川整備計画」において、宅地嵩上げ等を施していく対策が盛り込まれているところです。その必要性については、これまで重ねてきた要望活動により、国土交通省も十分認識していただいております。引き続き粘り強く、早期事業化について国に働きかけてまいります。次に、3項目めの、「新しい人の流れづくりについて」であります。令和6年度から、かわもと暮らしが一般社団法人化されることに伴い、事業展開や運営体制が強化されることから、より若年層のニーズに対応した新しい人の流れづくりを一層中核的に担う組織として、大いに期待しております。また、女子野球で繋がるプロジェクトを実施することにより、今後、町内で起こるでありましよう様々な化学変化の中から、新たな定住に向けた動きを呼び込めれば、と考えております。こうした取り組みの効果を最大限呼び込んでいくためには、町民の皆さんもちろん出身者の皆様や、本町にゆかりのある方々の思いや力をつなげていくことが不可欠であると考えます。議員ご指摘のとおり、コロナ後再開された東京・大阪・広島で開催される出身者会においては、是非ふるさとを応援したいとの強い思いが寄せられております。引き続き、出身者会のネットワークを活用させていただくことに加え、新生「かわもと暮らし」によるタウンプロモーションを強化することや、デジタル技術を活用した情報発信、さらには、町内外の民間企業との連携、企業版ふるさと納税の積極的な呼び込みなども意識し、多様で重層的なネットワークの構築を目指してまいりたいと考えております。

議 長

伊藤地域整備課長、今の町長答弁の中で、中倉日向線の改良工事完成後の課題、これに対する答弁がありませんでしたが、課長の方が答えられますか。  
はい、手を挙げて。番外伊藤地域整備課長。

番外伊藤地  
域整備課長

先ほどのものにつきましては、後ほどちょっと回答させていただくようお願いいたします。

議 長

再質問ありませんか。本山議員。

4番  
本山議員

今、1点目についてご答弁をいただきましたけども、ちょっと余りにもです。ね。当たり前過ぎて、これから産業のまちをつくっていくという迫力にはちょっと欠けるものじゃないかなと、少しがっかりをいたしました。コンパクトタウンの実現、女子野球タウンの構想は期待もありますし、大きな反響も呼んでおります。高齢化や人口減少が進む中で、地域の活力を維持し、生活に必要なサービスを確保するための重要な概念であり、施策だと思っております。しかし、町全体の姿を見渡ししながら、医療・福祉・商業などを誘導し、

4番  
本山議員 それに連携しながら、公共交通ネットワークを構築して各拠点を結び、住民の移動を助け、住民の生活の質を向上させることが根幹だと思います。それを頭に描きながら、次の舞台を築くものではないかと考えますが、町長、この辺いかがでしょうか。

議 長 番外野坂町長。

番外  
野坂町長 まさに今、議員がおっしゃったことがですね、これから向かおうとしている私のまちづくりの根幹でありまして、今、立地適正化計画ですね検討委員会の中で、各論につきましてはですね、検討されております。午前中の木村議員の答弁の中でまた違った視点からのお答えをさせていただいておりますね、いずれにしてもですね立地適正化計画で人口減少化で少子高齢化であっても暮らしやすいまちづくり、そして女子野球タウンのプロモーションによりましてですね今の人口ピラミッドをですね、将来、それをですね、人口減少化抑制した上で変更させた上で、社会増を招いていずれ自然増に結びつけていくと、こういったロードマップのもとにですね、各論をですねしっかり紐付けて展開していきたいと、このように考えております。

議 長 先ほどの問題の答弁を求めますが、伊藤地域整備課長大丈夫ですか。  
番外伊藤地域整備課長。

番外伊藤地  
域整備課長 先ほどの中倉日向線の拡幅についてでございますけども、これはまず、現地の方をですね確認をさせていただいて、より良い手法なり、また地元自治会ともですね協議を行った後に、また対策の方を検討してまいりたいというふうに考えております。

議 長 再質問ありますか。本山議員。

4番  
本山議員 弓市地区、因原地区におきましては、策定中の立地適正化計画に盛り込まれるのは当然だと考えます。そこはちょっと置いてですね、まず1地区ずつ、三原・弓市・因原というふうにごっとお尋ねしてまいりたいと思います。まず、三原地区の産業のまちづくりへの取り組みでございます。現在はエゴマ、米、農産物、これらの生産を続けていくことに現状はですね苦勞されている状況でございます。これはもちろん分かっておられると思いますけども、高齢化、担い手不足が深刻な中で、この産業のまちづくりを挙げられました。そこでですね三原地区においては何をされるんだろうと私自身考えたものでございます。有機栽培の奨励だろうか、ちょっと前にありました楽天農業への参入であろうか、そういうものを挙げられて、この仕組みづくりを考えておられるのかなと思いましたが、今どのようなお考えをお持ちなのか、お考えがありますか。

議 長

番外野坂町長。

番外  
野坂町長

この三原地区ですね、私自身の課題意識はですね、今ですが3つあります。集落営農法人ですね、これがですねいろんな広域連携で取り組みをですね、ドローンの共同防除などを始めておられます。ただこれは課題意識として私自身の課題、まさに人口ピラミッドですね、これが5年、10年、15年後と、そのまま高齢化が続きました時にですね、この担い手をどう確保していくか、これが大きな課題であろうと思います。それは飛びますけど弓市ですね小売商業あるいはサービス業も含めて事業承継も含めてですね、その担い手のですね確保このことがいちばん大きな課題であろうと思います。これはですね、なかなかその町単独でですね、これを財源投入して施策投入してという非常に難しい課題でもあります。何年も前から言われたことでありまして、ここのところは、県のですねすぐ近くにあります西部農林振興センター県央の普及員たくさんいらっしゃいます。そういった人たちがですね、今地元等でいろいろとアイデアも出していただいております。そういったところをですねしっかり意識しながら、あるいはその地域おこし協力隊、それから、ひょっとして女子野球で入ってくれた人がですね川本エリアを好んで入ってくれる人が、すぐにその事業後継者にならないにしてもですね、その人手間のところでですね少し新たな視点で、景観の優れたところでですね、向かってくれるという動きが起きるやもしれません。そのようなことをですねまず意識して、さらにその今やっている水田農業あるいはそのですねエゴマも含めて、エゴマはブラッシュアップですし、水田農業はですね、高付加価値化も含めて持続するような仕組みの構築、こういうことも並行してやっていかねばならないと、こういうふうを考えております。林業を述べればですね森林環境譲与税がですね今年から、さらにですね入ってくるものが増えてまいりますので、それを活用して、これもですねやっぱり担い手のところに強く充てていくべきであろうと思います。こういった支援をですね地元の動きを支援するとともに、やはりですね、これ28年度に入っていた三協さんですね、三協さんが今コロナ後に向けてですね、またいろんな動きを活発化されております。新たな設備投資、当面される設備投資は、年末から年明けにかけてですね、当面は省力化投資でありましたけども、それがいずれ将来のですね人を呼び込む投資につながる可能性があります。そうした思いのもとで、議会でもお認めいただきました設備投資への町単独での支援、もう一つ三協さんはですね県のですね補助制度を使って産業振興財団を通じた設備投資の支援を対象は違いますが両方受けておられます。これがいずれコロナ後ですね、新たな健康食品開発も考えておられるようですので、いずれそれがですね増設を伴って実現していくような後押し、これは求めておられます人の確保、そういったところも県の力をお借りしながら支援していくと。さらに今進めております観光誘客につながるやもしれない、子育て支援の人たちが喜んでくれる施設になるででありましょう、あのゾーンをです

番外  
野坂町長

ね、絡めながら進めていくことであろうと思っております。そういう意味では、地元のですね基幹産業の農業、そして林業しっかり支援し、新しいですね息吹であります三協さんの動きを呼び込んでいく。こういったことを睨みながら更にその誘客ですね、交通が先ほども述べましたけども、今、大田が新たにつながって三原エリアの人が非常にですね高速道路建設にしたことによって新しい人が入ってくる可能性もありますし、いろんな事業を通じたですね、物の動きや流れが変わってくると思います。そういったところを睨みながらですね、このエリアの振興を意識していきたいと考えております。

議 長

再質問ありますか。本山議員。

4 番  
本山議員

はい。今、町長がおっしゃられたこと、私もそのように思っておりました。一つ言えばですね、三原地区は地域の歴史・文化・風土に養われた、本当に豊かな源であるというふうに私は思います。地域に対する誇りや愛着は、ほかの地域よりもまだ強いものをお持ちだというふうに考えております。河津桜、今言われましたけども、河津桜公園構想が進められております。こうしたものもですね、町長自身が川本の一大名所に育てるぐらいの意気込みを持っていただければ、きっと観光の目玉になるというものがつくっていけるんじゃないかな、いうふうに思います。もともとこの桜公園自体がですね、この三協さんから始まっております。この三協さんとの連携をもっともっと、今深めて新しい動きもあるというようなこと言われましたけども、三協さんの名をアピールする、そして人を呼び込む、そして第2工場、第3工場と建てていただけるような環境づくりが、やはり三原地区における産業のまちづくりにつながるのではないかと思います。それは多分一緒の考え方だというふうに感じました。しかしですね一方、以前にも一般質問しましたけども、集落の人口減少と高齢化は思う以上に加速をしているということでございます。この地域で産業、そしてこの地域文化を守っていくというのにはですね、ちょっと余りにも緩い速度では、地域が本当になくなってしまふようなところもございます。何とかですね、もっともっと力強いリーダーシップを発揮していただきたい、この産業の三原地区の産業のまちづくりというものを進めていただきたいというふうに思います。いかがでしょうか。

議 長

番外野坂町長。

番外  
野坂町長

三協さんともですね、連携の強化につきまして、こここのところの動きを申し上げておきますと、実はですね今度の15日ですか、これ、株式会社三協さんが操業なさってですね60周年を迎えられて、そのですね祝賀の集いに招かれております。ここへはですね三協さんをですね、この三原のエリアに来ていただくときにですね、社長、大変喜ばれました。三原神楽団の方がですね、三協さん来ていただきました時に、地元の農業者の人が集まっていた

番外  
野坂町長

だいて、すぐ社長さんとですね、農家出身の社長さんと、会話が弾んだということと、その場でですね三原神楽団で、えびすを舞っていただきました。これ、ご存じの方はご存じですが、三協の社長さんというのは風水をですね、非常に好まれておりまして、風水その望ましい方向からですね、ここにいらっしゃいます飯田議員がですね、その三協さん、ぜひ進出をとということで、その字幕を出されてですね、そのようなですね、そういう意味ではその地域の農業者の方の思い等伝統芸能をですね生かした、そういう歴史がですね、今の新しいその健康食品企業ですね、全国、世界に名だたる健康食品企業を呼び込んだ、そういう歴史背景。それは、まさに三原エリアならではのそういう動きがあったところでもあります。このたびも、この60周年に向けてですね社長さんからぜひの思いでですね、三原神楽団に出演してほしいという依頼があっておりまして、三原神楽団とですね私と産業振興課長、祝賀の場に出てまいります。そこで、さらにですね将来のですね、この三原エリアにおける三協のですね、こうしたんだという社長の思いを新たに聞くことになろうと思います。こうした活動はですねその地域で使われた伝統文化のもとに赤い糸がですね、これ、どこにでもない中でその赤い糸が出てきたものを、今、皆さんと一緒にたぐり寄せてる、そういう最中でありまして、その赤い糸をさらにそうですね太くしていくような、そういう動きにしていきたいと思います。まさにですね私も、またその歴史・経済・文化・風土ですね、歴史・経済・文化・風土まで入れましたのは、議員おっしゃいましたですねこの地域のですね、戦国時代小笠原統治下以来つながるですね、人と人とのですね、そういう何て言いましょうか、地元でそういうものを大切にされ育まれ続けてきたエリアたる、そこをですねさらに今風に三協さんとの連携でブラッシュアップして、続けていくことで、さらに人が人を呼んで今、非常に課題となっています地元の基幹産業もですね、そういった動きが起こることで新たな動きが起きてくるのではないかと、このように考えております。スピード感を持ってやれということでありまして。おっしゃるとおりであります。コロナの間、ちょっといろんな動きがですね、なかなか特にフェイストゥフェイスで進めていかねばならない動きほどですね、コロナの間に遅れたように、ほかの取組を含めて感じております。これをですねスピード感を持って取り組んでいけるように進めてまいりたいと考えております。

議 長

再質問ありますか。本山議員。

4 番  
本山議員

はい、よろしくお願いをいたします。次に因原地区でございます。町長おっしゃいましたように、邑智郡随一の商業サービスの集積地になっております。これも元々ですね、川本インフォメーションを町が施策として、あそこに建設をした、ここから好循環な流れが生まれたように私は思っております。この流れを失わないようにですね策定中の立地適正化計画が、因原の地区で、

4 番  
本山議員

活性化されるような施策をうまく落とし込んでいくことが、因原地区のサービスの集積地が今後も存続していく要になるのかなというふうに思っております。先ほど町長が高速道路が開通して、川本からよその地域へ働きに出かけることも可能であるというふうに言われましたけども、やはり基本はですねやっぱり川本に住んで川本に勤めていただくというのが基本であろうと思いますので、やはりこのことは、ちょっと私はちょっと癪に障ったいいますか、そういう気持ちがい었습니다。因原地区はですね今言いましたのは因原地区自体がですね、よその地区よりも雇用環境が多い地区だというふうに思うんですよ。大型商業施設も3件あります。そして、やすらぎ荘とか江川荘とかですね、ああいう福祉施設そして、車の修理工場、そして運送業もあそこへ2軒ほどあります。そうした環境の中でですね、あれほどの会社が、大きな会社があそこにあるということは、やはり町としても、そこにはうまく連携して、雇用を生むような、そういう施策というのは必要ではないかと私は思うんですけど、この考え方についてどうお考えでしょうか。

議 長

番外野坂町長。

番外  
野坂町長

先ほどの私のですよね、もちろんおっしゃるとおりこの町に住んでいただいて、この町の事業所にですね勤めていただくということが、これは、町の持続可能性さらには税源涵養の面でもこれがもう、それこそ本当に望むところであります。一方でですね、多様な何と申しますか、雇用環境がですね、あるということはですねそれが公共交通が改善されることで多様な選択肢がふえるということはですね、そのベストな選択などの事前の選択としてですね事前の選択の可能性の余地が広がるという意味ではですね、非常にこれは悪くはないことだろうなというのが私の思いであります。ちょっと舌つ足らずなことはお詫び申し上げて思いは一緒であります。そしてですねまさに、やはりその本町が将来にわたって持続可能であるためにはですね、その雇用の創出を含めたエリアに付加価値をどうやって維持して呼び込んでいくかということでもあります。いつぞやもお話ししましたが付加価値という4文字のちょっと無機質的な概念というのは、まず、もう最大限雇用が入ってますし、それからそこで働く、もちろん働かれる方の給与も含めてますし、事業をやられる方の報酬も含めて付加価値といいますし将来にわたる減価償却費部分の将来にわたる設備投資余力も含めて付加価値といいますので、私たちの町が究極の目的というのはその地域の付加価値を最低限維持する、できればそれを高めていく呼び込んでいく付加価値を増大することをどうやって支援するかということが、町を持続可能性にするための最も根本的な、基礎自治体としてもですねこれは国や県に任しとるんじゃないことやらねばならないことに、近年浮上している政策課題であろうと思います。そういう意味におきまして最もですね、議員おっしゃいますように、分析してみなければわかりませんが、大型店もありますので仮に大型店のものがですね下層は大型店の付

番外  
野坂町長

加価値分は、本社があるとこ行ってしまいますけど、あのエリアでですね因原で、そういう経済循環分も含めてやはり最も大きな付加価値を巻き起こすエリアであるというのは、これは弓市もそうですけども、職種、あるいはその事業所ですね多様性も含めてですね、そういう、やはりその交通の要所であることでそれに伴っていろいろ、地元が付加価値が落ちているということもあろうと思いますし、そういう意味では道の駅にね、寄ってくださる、農産物の農産物の生産高付加価値分と加工高も含めてですね、あらゆる町居で付加価値を呼び起こす最も可能性のあるものが因原エリアにあると。これは近隣、そのエリア周辺とらえても、自負してもいいエリアだと思います。したがってそこをですねどうやって、維持と呼び込みを起こす動きをですねこのたびのエリアの立地適正化計画は私はハード面だと言いますが実はそのハード立地適正化計画を高めるのに、そのソフトを絡めて組立てていく必要があると、いろんなことを言いますが、この間道の駅、出荷組合の総会がありましたけどまさにですね、あの方たちの生産活動で加工高、それが更にあそこが良くなることで、それが広がっていきますので、そういう意味においてですね、そこをいかに高めるように支援していくかという意味におきまして全く議員と同感でありますし、そこを詰めていかねばならないと思っております。

議 長

再質問ありますか。本山議員。

4 番  
本山議員

はい、よろしくお願いをいたします。次に、弓市地区でございます。加藤病院の新築移転をきっかけに議論が盛り上がりましたコンパクトタウン&ネットワークの構築などの立地適正化計画と、そして女子野球部クラブ創設を絡めて、何か好循環の生まれるまちにしたいという思いは一緒でございます。しかし、課題は、こう弓市に関しましても多くございます。人口減少、そして消費の低迷、空き店舗対策も空き家対策も、現状ではなかなか難しいというのが現状でございます。川本堤防の完成堤防化が決定すれば、また話は別の展開をすると思うんですけども、現状においてですね、新しい商売をする。そして定住する方がそこにリスクを負って家を建てるか、あこで商売をするかということになりますと、なかなかちょっと今の場面では難しくなるんかなというふうに思っております。この立地適正化計画がですね、呼び水となって完成堤防化が決まるというようなことになりますと、随分弓市の様子は変わってくるというふうに思います。ですが、今はですね、防災意識をきちっと持って、それからまちづくりをするしかないというふうに思います。良い物を策定していかなければならないなというふうに思っております。弓市に関しましてはですね、現状、消費の低迷というのがあります。これはコロナ禍から、今、回復期に回復期にありますけども、なかなか元の状態には戻っておりません。これはですね飲食にしても、それから購買にしても、町なかで飲むとかですね、そういうのがこの4年間の間に、もう昔は各方々に常

4番  
本山議員

態的に川本町の中で飲むというようなことがあったと思うんですけども、それが薄れてきた。そして購買もネットとか、よそに行ったときに大量に買ってくるとかというような方向性に変わってきたりしましてなかなか難しいものがございますので、この弓市の中におきましては、もっともっと政策と言いますか、そういう方向性で助けていただければというふうな気持ちがいましております。今、物をつくってどうのこうのという時期ではないような気がいたしております。この辺どのようにお考えですか。

議 長

番外野坂町長。

番外  
野坂町長

この同じ立地適正化計画をですね都市計画区域あるエリアでイメージするときに、おっしゃいますようにですね、やっぱり地区の特性に応じた計画の作り込み、作り込んでいくということになると思います。おっしゃいますように、私自身もですね、この弓市地区には先ほど、因原地区のですね、事業のほうから入りましたけど、私はやはり、これは加藤病院がですね移転していく、エリアがあいてくるあそこをですね、今まで出来なかった機能を持たせるゾーンにしていくと。あるいはですね、弓市地区内にありますいろんな公共施設などで課題があったところ、それを起点にですね、利用をですね、イメージしていくことからですね、動きを起こしていく、そういう手法になるのかなとおぼろげながらイメージをしているところです。あその加藤病院のところにですね、いつでも申し上げましたがですね、今の地域公共交通の拠点例えばJR川本駅前からあそのあたりに動かしていくと。あるいはその相談機能をワンストップ化させていくと、そういったところを政策的にイメージしながらですね、新しい動きが起きてきたところにですね、地域にいらっしゃる方の午前中も議論になりましたけど住まい方ですね、そういったものをどういうふうに、今後、暮らしていこうとしておられたり事業を続けられようとするのかバトンタッチされるようとするのかを、きめ細やかに聞き進めながらイメージしていくという、そういった動きがですね完成するであろう、早めに、できればそのやっぱ女子野球のですね新たにそういう世代が入ってきていただいて、弓市の皆さんが現状では感じておられる課題をですね、ああいう世代の人たちが入ってこられることと新しいアイデアが入ることで、ちょっと新たな方向なり目が見えてくるかもしれませんので、それを落とし込んでいくと、そういう意味では、エリア的にやっぱちょっと公共政策的なところを意識しながら、それから起きてくるであろう生活者・事業者の方々の、あるいは入ってくる人の方々の思いアイデアを融合させてイメージしていくと、こういうことになろうかなという意味では、私も議員ご指摘の動きをしていくのかなというふうに今のところ思っています。

議 長

再質問ありますか。本山議員。

4番  
本山議員

先ほども木村議員のときに、ご質問がありましたけども現場主義に徹していくというふうなことがございました。ちょっと少し心配がございますけども、町長は組織の潜在能力を引き出しながら現場職員として経営感覚を持って行政運営に当たると言われております。話は横に逸れるんですけども、この前、食品衛生法の改正とか、今2024年問題とかありますけども、行政としてできることは、もう早めに例えば生産者とか、そういう仕事をされておる方には、まずもって、町民にいちばん直結するようなこととございますので、もっともって現場主義に徹するというのを、町長自身が職員の皆様方と一緒に考えていっていただきたいというふうに思っております。次にですね、移ります。先ほどの日向地区のことなんですけども、重点プロジェクト治水対策の推進では、2018年、20年の江川の氾濫で、町内各地に甚大な被害をもたらした。住民の生命と財産を守るという行政の使命を全うすべく、治水対策の推進が必要であるというふうに書いてあります。その中で、瀬尻・久料谷、谷地区の恒久的な治水が進んで、谷戸地区も川本波多線のルートが決定で、整備は期待されております。川本堤防については要望が本当に強化されておるというのを私も身をもって感じておるところでございますが、これも国や県に浸透してきているというふうに思っております。そこで残る事業としては日向地区が残された確保ということになっておると思うんですけども、そこも鉄路がなくなりました。何だかんだの対策はできるんじゃないかと思いますが、その辺いかがでしょうか。

議長

番外伊藤地域整備課長。

番外伊藤地域整備課長

日向地区につきましては、江の川下流域が全体がですね重点地区になっておりますけども、その中でですね二度、平成30年と令和2年の二度浸水被害を被った地区が約15地区で17箇所、これが重点地区になりまして、その箇所については、令和3年から10年間で約250億の予算を国がつけてですね、事業を行っていくという地区には設定されております。その中に、川本堤防でありますとか、日向地区については記載がございません。ですが、日向地区につきましては、たぶん河川整備計画は宅地嵩上げ等というふうに記載がされております。これは間違いなく、日向川がですね、江の川の増水によってバックウォーターで多分浸水するというところがありますので、そのデータでいきますと昭和47年の浸水被害がベースになっておるといふふうに考えておりますが、今の現状でいきますと、平成30年につきましては事業所が1箇所、浸水等の被害を受けておりますが、この水防災事業というのが、現に住まわれておる住家が対象となっておりますので、果たして本当に河川整備計画は宅地嵩上げというふうになっておりますけども、果たしてそれでいいのか、はたまたまた違う河川の事業でですね、できるものはないかということも含めまして、また国とですね要望なり協議のほうを進めてまいりたいというふうに考えております。

議 長 再質問ありますか。本山議員。

4 番 はん はい。私もそういう回答が来るだろうなというふうには思っておりました。  
本山議員 川本堤防のことを考えますと、なかなか日向地区に、国の事業がまわるとい  
うのはなかなか難しいことだと。そこでですね別の観点から、中倉日向線が  
ございます。今、さっきも言いましたけど正覚寺前、大変狭隘なところでご  
ざいます。もともとあそこ県が鉄板を引いとって、ちょっと広くしとったと  
いうようなこともございまして、そこが狭い道路で危険だという認識はある  
はずでございます。そこで、もともとそこの中倉日向線が出来た経緯という  
趣旨というのはやっぱり孤立集落の解消ということでございますので、それ  
を考えるならば、日向地区のあそこを拡張するのと、道路高さを上げること  
で、緊急避難というような面で考えれば、道路改良、町道としての道路改良  
はできるんじゃないかなというふうな気がしますが、その辺はどうお考え  
ですかね。

議 長 番外伊藤地域整備課長。

番外伊藤地 議員おっしゃられますように正覚寺の前の付近は、非常に狭うございます。  
域整備課長 中倉日向線の改良自体はそれよりまだ、上流で改良が終わっております。で、  
鉄板がまだ引いたところにつきましては、県のほうで一度は鉄板をとって、  
若干ですけども拡幅をしていただきました。ちょっと現場をちゃんと確認し  
ないといけませんけども、基本的にあその上流部には砂防堰堤がございま  
すので、基本、その河川の断面を侵すということは出来ません。ですので、  
もし、そういった意味で対策ができるのであれば、今川本大橋がありますけ  
どもそこを渡ると三島川に張り出した歩道というのがあるんですが、ああい  
った形式でですね、張り出してこの車道的なもので、何か出来ないかなとい  
うふうに考えておりますし、これももちろん、地元の自治会さんとも協議し  
ながらですね、また、基本的な財源も必要ですね、財源も含めまして検討の  
方法をしていきたいというふうに考えております。

議 長 再質問ありますか。本山議員。

4 番 前向きに検討していただきたいと思います。日向川はですね、結構奥が深  
本山議員 くですね、水量が相当多いというふうに聞いております。江川が10メー  
トルぐらい嵩上げになると、もうバックウオーターで、もう中が浸かってく  
るんだというような話を聞きましたんで、できる限り工法は、いろいろな今  
新しい工法が出来ておるということでございますので、狭隘なところも何と  
か整備できるんじゃないかというふうに思いますので、よろしく願いをい  
たします。次に移ります。人の流れのところでございますけども、町長が言  
われますように、川本は古くから交流のまち、物流拠点として栄えた歴史が

4番  
本山議員

ございます。しかしながら、この人口減少、高齢化などで社会的要因もあって、なかなか地域が衰退してきているということでございます。地域全体を考えてみますと、地域活性化を期待して誘致企業の三協さんと河津桜の植栽による景観事業も進められてきた。そして本町の歴史、進められてきたんですけども、実際はですね本町の歴史や地域の資源はまだまだ活かし切れていないというふうに思われます。川本会、関西・東京・広島など川本会の出席者からはですね、川本町の潜在能力を高く評価されておられる方もたくさんおられます。例えばですね、地域の魅力再発見、観光と商業の活性化としてですね、かわもと暮らしと町とで抱えるだけではなくてですね、もう少し町内の関係機関とも共有しながら、もっと委託に出すとかですね様々なアイデア出しも含めて、関係を密にすることが、私は必要なんじゃないかなというふうに思います。それぞれの持ちますネットワーク、ますます強固なものになって、川本の町の多様な組織を十分フル活用することができるんじゃないかなというふうに、思っております。今日の新聞に島根大学と包括的連携協定を結んだ記事が出ておりました。新しい人の流れにつながるような学生のアイデアに期待したい。そして学長は研究の力で町の産業振興に協力したいというふうにありました。また江川太鼓がかつて水害でふるさとの危機に立ち向かった。江川太鼓創設した諸先輩の志ある若者の思いを受け継ぎ、今を生きる私たちに何ができるのかを考え、クラウドファンディングに今挑戦しておられます。川本町のデンマークとの交流をはじめ来訪者と地域住民の交流拠点として活用したいと、今改修に動き始められております。いろいろな動きが今、この川本町の中で動いておると思います。この人の流れということに関しましては、大いに期待はできると思います。最近もですね川本を思う方からメールをいただきました。これは商工会の方にいただいたわけでございますけども、河津桜公園のこと、道の駅のこと、因原の町の商業施設のすばらしさのこと、木谷の交差点にある旧田中商店、こういうふうに使ったら良いんじゃないかというようなアイデア等も送っていただきました。このようにですねいろいろ思いを募らせてですね、川本に思いを寄せられる方がおられますので、私はネットワーク構築は、そんなに難しいことではないなというふうに思っております。しかし、そこではねやっぱり役割分担とか、そういうものがございますので、そこをどうするのか。そういう話合いができる場所を提供していただきたいということと、まず動くにはまず資金も入ります。交流専用の基金をつくっていただくとか、そういうことをしていただければ、もっともっと川本の交流人口、関係人口増えるんじゃないかなと思いますけどその辺いかがでしょうか。

議 長

番外野坂町長。

番外  
野坂町長

この町ですね、将来を呼び込むために、町がですねたどってきたこの交流の歴史をさらに活かすようなその交流の拠点となるような像のイメージと

番外  
野坂町長

さらにそれをですね、資金的に本当に私のネットワークが構築されるような資金的な支援を検討してはどうかというご質問であったろうと思います。まさにそのことはですね、加藤病院がですね進出した後に、そういったゾーンをですねいわゆる、ワンストップのですね地元の事業者からあるいは移住者・定住者に向けての相談を受けていただくようなゾーンとし、あるいはそこを公共交通拠点とすることができれば、そこに集う人も含めて、何某かのですね、拠点をですね、これは明示していきたいと思っております。拠点施設というとハード優先になってしまいますので、あくまでその拠点機能ですね、たまたま拠点機能を明示していったらこのような、若干施設とか、もしくは今ありますところひょっとしたら改修となるのかもしれないけれども、あくまで拠点というのはそういう動きをする中核的なその母体となるものが必要だという意味合いでの拠点はですね、ぜひ必要であろうと私も思っております。それからですねそこに集う人、あるいは発信する、県外からお会いする人に向けてのネットワークをですね、単なる連携とかネットワーク化というんでなくて本当に新しい人の流れにつながるような、あるいはその応援してくれた人たちが心底喜んでくれるような、応援して良かったねと思っていただけるような、そういうものにしていくには、やはり何某かの財源というものがなくなってこようかと思っております。今ですねですね仕組み云々を、具体的にこのようなイメージを持って、このような拠点イメージと今、言葉で申し上げましたが、その資金的なですね、組立てをどのようにイメージするかまでの具体的なですね、ものまでは今、申し上げるものを持っておりませんが、やはり長く続いてきたその出身者会の人たちがいつも寄せられる、そしてコロナ後さらに強くなったものにですね、応えていくために、この町には3,000人しかおられませんけど相当にたくさん応援隊がいるという意味合いからするとですね、そこをですね本当にそのどこにもないような、ネットワークにしていくためのですね、何がしかのそういうものは、研究をしてみたいと考えております。

議 長

再質問ありますか。本山議員。

4番  
本山議員

川本は、いろいろな思いを持ちながらも、今、大きな潮目といたしますか、変化のときを迎えているというふうに私は考えます。新しい人の流れづくりについて、しっかりと町の中でも研究していただいて、多くの方がこの川本のまちづくりに参加できるような方法をつくっていただきたいと思っております。これで私の質問を終わります。

議 長

以上で、「町長2期目の町政運営について問う」の質問を終了します。

々

これを持ちまして、本山議員の一般質問を終了します。

議 長

ここで、暫時休憩します。(午後) 2時05分より再開します。

(午後1時54分)